

越谷市総合振興計画審議会
環境・防災・経済部会 第2回会議

次 第

日時：令和7年8月4日（月） 午後6時30分～

会場：越谷市役所エントランス棟 3－1会議室

- 1 開 会
- 2 議 事
部会報告書（案）について
- 3 その他
- 4 閉 会

令和7年（2025年） 月 日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

環境・防災・経済部会

部会長 中島 美三郎

環境・防災・経済部会審議結果について（報告）

環境・防災・経済部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱4「持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり」と大綱5「魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

記

大綱4 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり

- 1 指標の進捗を確認するためのアンケートを実施する際は、質問の仕方によって結果が左右されることが懸念されるため、市が5年後にめざしている姿との整合性を検証すること。
- 2 自主防災組織のカバー率について、カバーしていることと、実際に機能するかは別であるため、高齢化の進展などを考慮し実効性のある組織となるよう働きかけること。

- 3 市民による心肺蘇生法実施率について、蘇生率を上げるため、マップの配布などの周知に努めること。また、なるべく多くの方が講習や訓練が受けられるよう体制を整備すること。
- 4 希少植物種の保護実施箇所数について、生息状態が異なる種を同じように保護、あるいは生息域外保全を行っても、本市のすばらしい自然を残すという概念からは外れているため、自然の面積拡大を目標にして取組みを進めること。

大綱5 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり

- 1 水辺の活用を検討する際は、生態系の観点も考慮すること。
- 2 農業の多面的役割について、保水・遊水機能による水害の防止や大気の浄化などに関する取組みや、地域で農地を守っていく取組みに努めてほしい。

以 上

項目順	大項目	中項目	頁	意見
1	4-1		91	指標や目標値は5年後の状態を達成できるものなのか根拠が必要である。本来は、5年後のめざす姿から逆算して算出すべきである。
2	4-1		91	進捗を測る際のアンケートの取り方で数字は変化してしまうため、本市が目指している姿との整合性をとって取り組んで欲しい。
3	4-1		91	「市民1人1日あたりのごみ焼却量」について、例えば、CO2の排出量に換算するとどの程度減るのか、等のPRを含め実施するのはどうか。
4	4-1	413	93	「希少植物種の保護実施箇所数」について、一部の希少種で植物全体の生態系を守っているわけではなく、また、生息状態の異なる種を同じように保護する取組み・指標よりも、「生物の生息・生育に配慮した区域の面積」のほうが良いのではないか。
5	4-2		95	「自主防災組織のカバー率」について、自主防災組織がカバーしていることと、実際に機能するかは別であるため、高齢化の進展などを考慮し実効性のある組織とすべき。
6	4-2		95	川を活用した船での支援物資の運搬や移動について、八条橋や潮止橋が老朽化でいつ落ちるかわからないなど、いろいろなことが想定されるため、例えば、災害時に船を利用した河川での支援物資の運搬など、川を積極的に活用する施策を考えてほしい。
7	4-2	422	96	コロナ禍の後に、中断していた防災訓練を再開したところ、参加人数が大きく減っている傾向にある。地域防災力の向上とわかって自治会や自治連、コミュ協と連携しているが、取組みが思うようにいかないため、行政の支援を期待したい。
8	4-2	423	97	振り込み詐欺やキャッシュカードの暗証番号を教えたしまったといったことが何回か発生しており、安心して暮らせるまちにするために自主防犯活動団体の支援は必要だと考えている。
9	4-3		101	市内でAEDがどの位置に設置されているのか、マップの配布などの周知が行き届くほどに蘇生率が上がると思う。
10	4-3		101	「市民による心肺蘇生法実施率」について、消防の方に来て講習いただこうとしたが、6月に予約状況を確認した際10月までいっぱいだったということがあった。改善策を考えてほしい。

項目順	大項目	中項目	頁	意見
11	5-2	522	112	地域資源について、SDGsのウェディングケーキモデルとしては、一番下に基礎的な生物多様性などがあり、その上に経済などが乗っているため、環境に対し、何も働きかけをしないで維持できていると考えていることは間違いだと思っている。色々と補助するにも手間とお金がかかるため、環境政策課に予算をつける等力を入れてほしい。
12	5-2		111	自治会が配付物を配付できなくなってきたおり、市民が自分から情報を取りにいかねばならないようになっていたため、地域とのかかわりを増やして行く必要がある。
13	5-3		115	「地場農産物の認知度」について、「メロン」が入っていない。越谷はメロンを打ち出していると思う。
14	5-3		115	農業について懸念されることは、立地条件等の記載があり、作れば売れると思われるが、高品質な商品を出さないと売れない。
15	5-3		114	農業の多面的役割について、課題は認識しているのであれば、取組みも記載すべきではないか。

項目 順	大項目	中項目	頁	意見	報告書（案）反映状況		会議録 頁
1	4-1		91	指標や目標値は5年後の状態を達成できるものなのか根拠が必要である。本来は、5年後のめざす姿から逆算して算出すべきである。	○	【大綱4】 意見1	3
2	4-1		91	進捗を測る際のアンケートの取り方で数字は変化してしまうため、本市が目指している姿との整合性をとって取り組んで欲しい。	○	【大綱4】 意見1	3
3	4-1		91	「市民1人1日あたりのごみ焼却量」について、例えば、CO2の排出量に換算するとどの程度減るのか、等のPRを含め実施するのはどうか。	-	今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	5
4	4-1	413	93	「希少植物種の保護実施箇所数」について、一部の希少種で植物全体の生態系を守っているわけではなく、また、生息状態の異なる種を同じように保護する取組み・指標よりも、「生物の生息・生育に配慮した区域の面積」のほうが良いのではないか。	○	【大綱4】 意見4	5
5	4-2		95	「自主防災組織のカバー率」について、自主防災組織がカバーしていることと、実際に機能するかは別であるため、高齢化の進展などを考慮し実効性のある組織とすべき。	○	【大綱4】 意見2	3
6	4-2		95	川を活用した船での支援物資の運搬や移動について、八条橋や潮止橋が老朽化でいつ落ちるかわからないなど、いろいろなことが想定されるため、例えば、災害時に船を利用した河川での支援物資の運搬など、川を積極的に活用する施策を考えてほしい。	-	今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	9
7	4-2	422	96	コロナ禍の後に、中断していた防災訓練を再開したところ、参加人数が大きく減っている傾向にある。地域防災力の向上とわかって自治会や自治連、コミュ協と連携しているが、取組みが思うようにいかないため、行政の支援を期待したい。	-	今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	6

項目 順	大項目	中項目	頁	意見	報告書（案）反映状況	会議録 頁
8	4-2	423	97	振り込み詐欺やキャッシュカードの暗証番号を教えてしまったといったことが何回か発生しており、安心して暮らせるまちにするために自主防犯活動団体の支援は必要だと考えている。	- 今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	4
9	4-3		101	市内でAEDがどの位置に設置されているのか、マップの配布などの周知が行き届くほどに蘇生率が上がると思う。	○ 【大綱4】 意見 3	4
10	4-3		101	「市民による心肺蘇生法実施率」について、消防の方きて講習いただこうとしたが、6月に予約状況を確認した際10月までいっぱいだったということがあった。改善策を考えてほしい。	○ 【大綱4】 意見 3	5
11	5-2	522	112	地域資源について、SDGsのウェディングケーキモデルとしては、一番下に基礎的な生物多様性などがあり、その上に経済などが乗っているため、環境に対し、何も働きかけをしないで維持できていると考えていることは間違いだと思っている。色々と補助するにも手間とお金がかかるため、環境政策課に予算をつける等力を入れてほしい。	○ 【大綱5】 意見 2	8
12	5-2		111	自治会が配付物を配付できなくなってきたり、市民が自分から情報を取りにいけないようになってきているため、地域とのかかわりを増やして行く必要がある。	- 大綱1に関わることから、ここでは参考意見とさせていただきます。	7
13	5-3		115	「地場農産物の認知度」について、「メロン」が入っていない。越谷はメロンを打ち出していると思う。	- 今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	8
14	5-3		115	農業について懸念されることは、立地条件等の記載があり、作れば売れると思われるが、高品質な商品を出さないと売れない。	- 今後の施策に関するご意見として参考にさせていただきます。	8
15	5-3		114	農業の多面的役割について、課題は認識しているのであれば、取組みも記載すべきではないか。	○ 【大綱5】 意見 2	9

部会における審議のポイント

部会報告書は、第4回会議（8月27日・全体会）で部会長に内容を報告していただいたのち、答申（案）に反映し、第5回会議（9月29日・全体会）において、答申（案）に関する意見をいただき内容を確認します。

審議していただく内容

- ①資料1 1～2ページ 部会報告書（案）に記載された意見が、部会第1回の意見（答申につながる意見）として端的に表現されているか。
- ②上記意見に対し、（追加・削除・表現を変更）する箇所があるか。

追加の例

水害対策が進み、公共下水道等のインフラ施設が計画的に管理された

「持続可能で安心して住めるまち」をめざすこと。

【理由】インフラ施設を適切に管理することで、将来世代に渡り持続可能なまちとなるため。

表現の変更の例

水害対策が~~進み~~、**を強化し**、公共下水道等のインフラ施設が計画的に管理された

「安心して住めるまち」をめざすこと。

【理由】「安心して住めるまち」となるためには、現状よりも水害対策を強化する必要があると考えられるため。

参考：答申（第5次総合振興計画前期基本計画）

令和2年（2020年）10月21日

越谷市長 高 橋 努 様

越谷市総合振興計画審議会
会 長 石 崎 一 宏

第5次越谷市総合振興計画前期基本計画（素案）について（答申）

令和2年6月23日付け、越政第59号をもって諮問のありました事項のうち、第5次越谷市総合振興計画前期基本計画（素案）について、別紙のとおり答申します。

答 申

本審議会において、第5次越谷市総合振興計画前期基本計画（素案）について、慎重に審議した結果、基本構想で示された本市の将来像を実現するための各分野における施策、まち・ひと・しごと創生法に基づく越谷市総合戦略、さらには、新たなまちづくりの視点として掲げる推進ビジョンなど、今後5年間のまちづくりの計画としては概ね妥当であると判断し、下記を付帯意見として添え、答申いたします。

なお、本審議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら審議を重ねてきましたが、審議を終えた時点でも、未だ新型コロナウイルスの終息は見えていません。各施策を推進するうえで、この感染症による影響は見通せない状況にありますが、付帯意見を踏まえ、今後5年間のまちづくりが推進されることを望みます。

また、本審議会で出された各委員の意見につきましては、今後、前期基本計画の策定を進めるにあたり、十分参考とされるよう望みます。

記

分野別計画

大綱1 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり

- 1 市民と協働のまちづくりに関して、市民の参画をさらに進めるという視点に立ち、市民からの事業提案など、新たな協働の仕組みづくりに取り組むこと。

自治会の活性化に関して、自治会の魅力を高め、多くの市民の加入・参画を促進するため、時代の変化や社会の変容に則したあり方・運営方法を示すなど、自治会活動に対するさらなる支援に取り組むこと。

市政情報の提供に関して、市からの発信だけでなく、地域コミュニティ組織や市民活動団体などからの情報発信の支援に取り組むこと。

2 人権問題に関して、次世代を担う子どもの人権について明記し、その推進に取り組むこと。また、外国籍市民が増加するなか、国籍の違いにかかわらず市民どうしの相互理解を支援するなど、多文化共生の推進に取り組むこと。

3 行政のスマート化に関して、市民に身近な公共施設において通信環境の整備を推進するなど、市民の利便性向上に取り組むこと。また、行政手続きのオンライン申請等をより多くの市民が活用できるよう、利用方法の周知等に取り組むこと。

公共施設に関して、今後の人口減少社会に合わせた適正な施設の配置に取り組むこと。

財政状況が厳しいなか、多様な財源の確保に取り組むこと。

大綱 2 みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり

1 地域福祉体制の充実に関して、地域福祉の中心的な役割を担う民生委員・児童委員と自治会との連携強化など、住民相互の助け合い・支え合いのさらなる推進に取り組むこと。

2 子どもの居場所づくりに関して、特に小中学生などに対し、公共施設の柔軟な運用・管理体制を整備するなどして、身近に安心して過ごせる場所を提供し、子どもの自主性・創造性を育む環境の充実を図ること。

3 障がい者（児）が安心して暮らせる環境づくりに関して、障がいのある人もない人も、幼少期から互いにふれあう機会を創出するなど、障がいへの理解を深める取組みの充実を図ること。

4 高齢者の生きがいづくりに関して、認知症予防につながる趣味やボランティア活動に参加できる身近な居場所の整備に取り組むこと。

認知症の人にやさしい地域づくりに関して、認知症についての理解を深めるため、小中学生などに対しても積極的な啓発に取り組むこと。

高齢者の就業に関して、意欲ある高齢者が就業できるよう、支援策のさらなる充実を図ること。

大綱 3 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり

- 1 定住促進に関して、市民の定住志向を高めるため、本市の充実した都市基盤施設や自然との調和、さらには本市が有する地域資源、といった魅力の積極的な情報発信とともに、新たな魅力の創出に取り組むこと。また、市民と協働して景観資源に対する愛着の向上に取り組むこと。

このような取組みにより、新規転入者の定住増加を図ること。

- 2 道路の整備に関して、慢性的な交通渋滞の解消を図るとともに、事故が多発する路線においては、事故防止に必要な整備・改修を行い、構造上の課題の解決に取り組むこと。また、都市計画道路の整備に関して、計画的な推進に取り組むこと。

歩道の整備に関して、道路照明灯の設置や無電柱化、バリアフリー化により、子どもから高齢者、障がい者など全ての歩行者が安全、安心、快適に通行できる環境の整備に取り組むこと。

- 3 緑化の推進に関して、子どもから高齢者まで多世代が集う公園に木陰をつくとともに、公園・緑道だけでなく、街路樹などの街なかの緑地を含めた一体的な緑地空間の整備に取り組むこと。

- 4 空き家等対策に関して、少子高齢化の進行に伴う空き家等の増加を想定し、高齢化社会に対応した的確な対策の推進に取り組むこと。

大綱 4 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり

- 1 地球温暖化防止対策の推進に関して、基本計画の5か年という計画期間に鑑み、低炭素社会から脱炭素社会の構築へと段階的なまちづくりに取り組むこと。

- 2 災害対策の推進に関して、東日本大震災の経験と教訓が取り入れられた「仙台防災枠組2015－2030」を踏まえ、災害への備えについて強化を図るとともに、総合的な災害リスク管理に取り組むこと。

地域防災力の向上に関して、災害時に迅速かつ的確に対応するため、地域防災の拠点としての機能を担う地区センターの整備を含め、地域防災の担い手となる市民一人ひとりの防災意識の高揚を図ること。

消防団の充実に関して、若年層を含む市民に対し、地域消防の重要性について周知・啓発を図ること。また、消防団員が活動しやすい環境の整備に取り組むこと。

- 3 グリーンインフラストラクチャーの推進に関して、自然環境が有する多様な機能を活用し、防災・減災などの地域課題の解決や地域振興を図るため、グリーンインフラストラクチャーの趣旨に則したまちづくりに取り組むこと。

※「グリーンインフラストラクチャー」…自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、米国で発案された社会資本整備手法のこと。

大綱5 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり

- 1 首都近郊に位置する本市の農業に関して、さらなる地産地消の推進や農産物販路開拓のほか、加工品開発の支援など、農業経営の支援強化に取り組むこと。
また、本市の地理的特性に応じた農地の保全・活用に取り組むこと。

大綱6 みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり

- 1 小中一貫型小中学校の整備に関して、対象校の拡充を含め、積極的な推進に取り組むこと。

幼児期から学齢期への移行に関して、情報技術の活用などにより教育の連続性を確保し、教育の底上げに取り組むこと。また、すべての子どもたちを虐待から守るため、情報技術を活用するなどして、継続的に子どもたちを見守る体制の整備に取り組むこと。

2 市民の生涯にわたる学びに関して、市の歴史資料を収集し、一括展示する施設の整備に取り組むこと。

3 スポーツ・レクリエーション活動の推進に関して、幅広い世代の市民に対し、スポーツ観戦機会の充実などによりスポーツに対する興味・関心を喚起し、地域と連携しながらスポーツ・レクリエーション活動に親しむ人口の増加を図ること。

市民の健康増進に関して、ウォーキングなどの生涯スポーツに取り組む機会のさらなる拡充を図ること。

スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実に関して、市民が安全、快適にスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう、体育施設の適正な維持・管理、必要に応じた改修に取り組むこと。

まち・ひと・しごと創生 越谷市総合戦略

1 持続性のある産業育成に関して、企業規模、業種、業態等に関わりなく、あらゆる産業に対する支援策の拡充に取り組むこと。

2 持続的に農業が行われる環境づくりに関して、食の安全性への関心や健康志向の社会的な高まりに鑑み、有機農業の導入支援など本市農業の高付加価値化に取り組むこと。

3 雇用対策に関して、新型コロナウイルスの感染拡大により、リモートワークなど職場と離れて居住しながら就労を可能とする新たな働き方が広まるなか、こうした働き方をする人たちに選ばれる都市となるための施策に取り組むこと。

4 少子化対策に関して、これから出産する人や出産を希望する人への支援策のさらなる拡充に取り組むこと。

以 上

越谷市総合振興計画審議会 環境・防災・経済部会
第2回会議 出席職員名簿

役職名	氏名
危機管理室長	渡 邊 智 行
広報シティプロモーション課長	水 口 圭
環境政策課長	豊 田 裕 二
経済振興課長	和 田 竜 也
農業振興課長	内 田 英 行
予防課長	藤 居 裕 士
救急課長	上 村 豊
政策課調整幹	倉 澤 壮 太
政策課主任	岩 崎 友 希
政策課主事	石 井 優 大